

「国際交流事業」の取組

緑区 美園中学校 主幹教諭 水村 亨



1 はじめに

平成7年度から「世界に通用する人材の育成」の実現を目指し、本校独自の国際交流事業がスタートした。この事業は、20年以上のあゆみの中で時代とともに交流の形は変化してきているものの、地域の期待を受けて、「変化に対応した教育活動の推進」「国際社会に貢献できる人材を目指す教育活動」の一助となっている。

2 国際交流事業取組の流れ

(1) 第1期 平成7年度～18年度

立ち上がりからの12年間は、姉妹都市であるニュージーランドとの交流を実施。平成15年度以外は、こちらからニュージーランドへの訪問が主であったが、創立40周年の記念式典のときなど2回ほど日本滞在の受け入れも行っていった。

(2) 第2期 平成19年度～25年度

平成19年度より、交流相手校の Peach Grove 校の要望があり、隔年で訪問と受入を開始。受入が増えたことで、校内の全生徒が海外生徒と触れ合うチャンスが増えた。また、ホストファミリーとして地域の家族が交流事業に参加できたことなどがこの時期のメリットと挙げられる。

(3) 第3期 平成26年度～29年度

平成26年度からの2年間、PG校の事情や、世界的にも海外渡航に対する安全性への心配などから実施できない時期もあった。

しかし、その間も学校の教職員や地域の方々と会議を行い、28年度にはオーストラリアへの海外体験を新たに開始し、29年度は、博報

財団に協力を得て、14カ国56名の海外生徒の学校訪問や合同合宿、ホームステイの受入、さらには夏休み中に海外体験活動を行うこともできた。

(4) 今後の取組について

30年度には、夏休みに入ってからすぐにオーストラリア方面への海外体験を実施する方向で動いている。派遣メンバーが決定し次第、事前準備として、G・Sの教員を中心に社会科などの他教科の協力も得て、英語や国際交流に必要なことについて補講を行い、交流時に日本文化を披露する出し物の練習なども行う予定である。



3 おわりに

初年度からの海外派遣生徒数は220名を超えるまでになり、時代の流れの中でニュージーランドからオーストラリアに派遣先を変えて継続しているが、この20年以上の実績を見ても、生徒たちが自分の学校に誇りをもち、世界に目を向け発展していることが実感できる。これからの美園中学校の更なる発展のためにも、地域の皆様の協力の下、この事業を継続していきたい。